

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果(藤沢中学校)

## 平均正答率

(単位 %)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
藤沢中	66	51	57	35	53
埼玉県(公立)	75	61	65	47	65
全国(公立)	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

## 質問紙調査より

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値

(単位 %)

	質問事項	藤沢中	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	97.7	92.6	91.9
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	70.9	77.5	74.2
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	90.7	91.2	90.3
	学校の規則を守っている	94.2	96.3	95.1
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	47.7	56.9	52.1
	家で、学校の宿題をしている	79.4	91.1	91.6
	家で、学校の授業の予習・復習をしている	60.4	60.3	55.2
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	77.9	74.2	70.6
教科への関心	数学の勉強は好きだ	47.7	54.0	53.9
	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	37.2	43.9	38.7
	理科の勉強は好きだ	54.6	61.6	62.9
	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	40.7	49.9	45.4
その他	自分には、よいところがあると思う	60.5	76.0	78.8
	将来の夢や目標をもっている	73.2	74.4	72.4
	人の役に立つ人間になりたいと思う	90.7	94.3	94.9
	今住んでいる地域の行事に参加している	55.8	44.9	45.6

## 藤沢中の「よかった点 (○)」と「課題 (●)」

### 【国語】

○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題の中では、平均正答率が90%を越えているものがある。

- 国語Aでは、領域「話すこと・聞くこと」の平均正答率が57.8%で全国平均を大きく下回った。
- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する問題が苦手である。
- 国語Bでは、領域「話すこと・聞くこと」が、全国、県の平均正答率を約10%下回った。
- 文脈の構成や展開について自分の考えを持つ問題や、質問の意図を捉える問題が苦手である。

### 【数学】

○数学Aの問題から単項式どうしの除法の計算についてなど基本的な技能の理解は高い。

- B問題「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理すること」「計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明すること」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」「発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き表すこと」など説明や証明といった部分に課題がある。
- 質問調査用紙で「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」という質問において県・全国の平均を大きく下回った。

### 【理科】

○県や市内平均に比べ13ポイント差があるが、記号や公式に関係する問に対しては差が小さく、基本的な学習内容は概ね理解していると思われる。

- 評価の観点別では「関心・意欲」に関わる問いについて全国、県の平均正答率を約20%下回った。

### 【質問紙】

○1日1時間以上学習する生徒が全国平均よりも上回っている。

○地域の行事に参加している生徒は、全国・県平均を大きく上回っている。

- 自分で計画を立てて学習することが苦手である。
- 「家で学校の宿題をしている」全国・県の平均が91%に対して本校生徒は79%と下回っている。
- 数学・理科の好きな生徒が全国・県の平均を下回っている。
- 自分には、よいところがあると思うという生徒が全国・県の平均を大きく下回っている。

## 課題への取組・改善策

### 【国語】

- ・話を聞き取り、必要に応じて質問することができるよう、スピーチや話し合いの場面を意図的に取り入れた授業を実施する。
- ・多様な文章に親しみ、文脈構成や展開を捉える問題に慣れさせる。話す・聞く学習に繰り返し取り組み、授業で前時の復習に取り組むことで既習事項の内容の定着を図る。

### 【数学】

- ・数学の授業の中で、数学のよさや、普段の生活のどんな場面でその学習内容が利用されているか実生活の中の具体的な事柄を、資料等を使って生徒に伝える。
- ・数学的な表現を用いての説明や証明といった言語活動を伴う問題には多くの課題が見られたので、
  - ①数学的な用語とその意味を確実にすること
  - ②数学的な用語を積極的に用いて授業を行うこと
  - ③説明や証明の形を教えることの3つを意識して指導する。

### 【理科】

- ・科学的な事象や現象について、「学ぶ」ことへの意欲が低い。異常気象や地震関連のニュースを題材として、指導学年に拘らず、導入部で解説を取り入れ、理科への関心が高まるようにする。
- ・「成績」や「学問」への向上心が低いので、授業の中で意図的に発表や発言場面を設定し、級友どうしで語り合ったり、発言や発表を賞賛(褒める)したりする雰囲気育て、向上心を高める。
- ・毎時、授業の導入で、前時や既習内容の復習を行う。反復学習を行い、理解度を深め、学習内容に連続性を持たせることで、本時の見通しを立てて取り組ませる。

### 【その他】

多くの質問用紙の項目について、全国・県平均を下回っている。生活習慣を見てみると「就寝時間」については課題が、「朝食を食べる」「朝同じ時間に起きる」など基本的な生活習慣は全国平均を上回っており規則正しい生活習慣が身に付いていると考えられる。学習習慣においても、「予習復習をすること」や「学校以外で1日1時間以上勉強する H29:69.4%→H30:77.9%」などの項目で全国を上回っており、「勉強をする」という習慣は身に付いてきていると考えられる。しかし、教科への関心が低いことや平均正答率は全国・県平均を大きく下回っていることから、確かな学力につながっているとは言いがたい。

質問用紙から「自分で計画を立てて勉強している」生徒に課題がある。確実な学力向上につなげていくためには、学校で「学習の見通しの立て方」を各教科で統一して指導していくことや「家庭学習の仕方」を学校の中で丁寧に指導していくことを実施します。

また、各教科の学習の見通しを立てるために、「本時の目標」を明確に、一時間のなかの到達目標をはっきりとさせる。そのために板書用の掲示物を統一し、授業の流れを「見える化」する。

そして小テストを定期的に行い、基礎プリントを活用した反復学習を充実させ基礎学力の定着と学力向上につなげる。